

平成17年度畑作関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成17年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成17年12月5日(月)～6日(火)、池之端文化センターにおいて開催された。

本年度供試された畑作関係除草剤は、作用性試験6剤、適用性試験31剤で、生育調節剤は作用性試験2剤、適用性試験6剤であった。

このうち適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表のとおりである。

平成17年度 畑作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除草剤

薬剤名	作物名	試験判定 種類	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. <u>AH-01</u> <u>液剤</u> (S)-2-アミノ-4-[ヒドロキシ(メチル)ホスフィニル]ブタン酸ナトリウム塩 10.5%	大豆	適用性	実・一年生雑草	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～500 mL <水量100～150L>	全土壌		1) 北海道を除く	・地域拡大
				茎葉(畦間)	生育期 雑草生育期				1) 北海道を除く 2) 雑草の草丈30cm以下で散布する。 3) 作物に飛散しないように散布する。	
	小豆	適用性								・効果、薬害の確認
	菜豆	適用性								・効果、薬害の確認
	ばれいしょ	適用性	実・一年生雑草	茎葉	植付後萌芽前 雑草発生期	100～200 mL <水量100～150L>	全土壌		1) 北海道を除く	・地域拡大
	ホップ	適用性	実・一年生雑草	茎葉(畦間)	生育期 雑草生育期	300～500 mL <水量100～150L>	全土壌		1) 雑草の草丈30cm以下で散布する。 2) 作物に飛散しないように散布する。	

注) _____ は拡大される部分、..... は拡大部分が含まれることを示す
薬剤名の _____ は新たに使用基準が作成される薬剤である

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	試験判定 種類	使用基準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域		
2. AL-513 (改) 細粒剤 アフラロール 4% リニロン 1.04%	大豆	作・実・ 適・継 用性	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	4~6kg	全土壌 (砂土を 除く)		1) 北海道を除く 2) 砕土、覆土、整地は ていねいに行い、均 一に散布する。	・ 効果、薬害の 年次変動の確認 ・ 地域拡大
3. ALH-024 顆粒水和剤 新規化合物 70%	飼料用 とうも ろこし	作用性								
4. ANK-553 乳剤 ベンディメタリン 30%	春播小 麦	適用性	一年生雑 草 (イ科、 ユリ科を除 く)	土壌	播種後~小 麦2葉期 (イ科雑草 1葉期まで)	300~500 mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を 除く)			・ 小麦出芽直前 ~出芽揃処理 での効果、薬 害の年次変動 の確認
5. ANK-553 細粒剤 ベンディメタリン 2%	ばれい しょ	適用性	一年生雑 草 (イ科、 ユリ科を除 く)	土壌	植付後 雑草発生前	4~6kg	全土壌 (砂土を 除く)		1) 北海道を除く 2) 砕土、覆土、整地は ていねいに行い、均 一に散布する。	
	ばれい しょ (マルチ)				植付後マル チ前 雑草発生前					
	陸稲	適用性	一年生雑 草 (イ科、 ユリ科を除 く)	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	4~6kg	全土壌 (砂土を 除く)		1) 砕土、覆土、整地は ていねいに行い、均 一に散布する。	
6. BAS-3510 (Na)L 液剤 ベンタゴン 40%	大豆	適用性	一年生広 葉雑草	茎葉	大豆2葉期 ~開花前 広葉雑草生 育初期 (6葉 期まで)	100~150 mL <水量 100L>	全土壌		1) 気象条件によっては 一過性の薬害を生じ ることがある。 2) 品種によっては薬害 により減収する場合 があるので、使用に あたっては使用前に 公的指導機関の指導 を受けること。 3) アザミ科、ヒヨドリ バナ科等には効果が 劣る。 4) 体系処理：イネ科雑 草に有効な除草剤を 使用する。	
	春播小 麦	適用性	一年生広 葉雑草	茎葉	小麦5葉期 (広葉雑草 3~6葉期)	100~200 mL <水量 100L>	全土壌		1) シロイ、アザミには効果 が劣る。	

A. 除草剤 つづき

薬 剤 名	作物名	試験 種 類	判 定	使 用 基 準						継続の内容
				対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域	
7. BAS-656 乳 剤 ジメナミド-P 720g/L	てんさい (移植)	作用 性	—							
8. CG-119 乳 剤 メトラクロール 45%	てんさい (直播)	適用 性	実・ 継	一年生イネ 科雑草	土壌	出芽揃 雑 草発生前	200～300 mL ＜水量 100L＞	全土壌 (砂土を 除く)		・ 出芽揃期処理 での効果、薬 害の年次変動 の確認
9. DCMU 水和剤 DCMU 78.5%	さとう きび (株出) (春植) (夏植)	適用 性	実・ 継 (従来 通り)	(生育期処理は継続) 一年生雑 草	土壌	植付覆土後 または培土 後	100～150 g ＜水量70 ～100L＞	全土壌 (砂土を 除く)		・ 生育期処理で の展着剤加用 と効果、薬害 の検討
10. DPX-16顆 粒水和剤+ BAS-3510 (N a) L液剤 チフェンシルフロメチル 75% ベンタゾン 40%	春播小 麦	適用 性	継							・ 効果、薬害の 確認
11. JHY-501 水溶剤 ジアン酸ナトリウム 80%	ばれい しょ	適用 性	継							・ 効果、薬害の 確認
12. KUH-043 顆粒水和剤 3-[(5-ジフルオ ロメキシ-1-メチル-3 -トリフルオロメチルビ ラゾール-4-イル)メ チルスルホニル]-4,5 -ジヒドロ-5,5 ジメチルイソキサゾール 50%	大豆 とうも ろこし 飼料用 とうも ろこし	適用 性	継							・ 効果、薬害の 確認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	試験 種類	判定	使 用 基 準						使用上の注意	継続の内容
				対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		
13. MON-93A 液剤 グリホサートアンモニウム塩 33%	大豆	適用性	実	一年生雑草	茎葉	耕起または播種 7日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	250~500 mL <水量25~50L>	全土壌		1) 北海道を除く 2) 専用ノズルを使用する。	
	さとうきび	適用性	実	雑草全般	茎葉	耕起または植付 7日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	250~500 mL <水量25~50L>	全土壌		1) 専用ノズルを使用する。 2) 低薬量では多年生雑草に効果が劣る場合がある。	
14. MON-96A 液剤 グリホサートアンモニウム塩 41%	大豆	適用性	実	一年生雑草	茎葉	耕起10日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	250~500 mL <水量25~100L>	全土壌		1) 北海道を除く 2) 少水量散布 (25~50L) の場合は専用ノズルを使用する。	
						播種後出芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	250~500 mL <水量50~100L>			1) 北海道を除く 2) 大豆の発芽開始後は、薬剤が直接触れると薬害が発生することがあるので注意する。 3) 少水量散布 (50L) の場合は専用ノズルを使用する。	
					茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期	250~500 mL <水量25~50L>			1) 北海道を除く 2) 雑草の草丈30cm以下で散布する。 3) 作物に飛散しないように散布する。 4) 専用ノズルを使用する。	
	飼料用とうもろこし	適用性	実	雑草全般 (スギナを除く)	茎葉	播種後出芽前 雑草生育期	250~500 mL <水量25~100L>	全土壌		1) 少水量散布 (25~50L) の場合は専用ノズルを使用する。	
	ばれいしょ	適用性	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または植付 7日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	250~500 mL <水量25~50L>	全土壌		1) 北海道を除く 2) 専用ノズルを使用する。	・低薬量での効果の確認
	さとうきび	適用性	実	雑草全般	茎葉	耕起または植付 7日以前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	250~500 mL <水量25~50L>	全土壌		1) 専用ノズルを使用する。 2) 低薬量では多年生雑草に効果が劣る場合がある。	

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	試験判定 種類	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域	使用上の注意	
MON-96A 液剤	そば	適用性	実 (従来通り)	雑草全般 (スギナを除く)	茎葉	耕起または 播種 7日以前 雑草生育期 (草丈 30cm以下)	250~500 mL <水量 25~50L>	全土壌	1) 専用ノズルを使用する。	
15. MW-851 液剤 ビアラホス 18%	大豆	作用性	一							
16. <u>NBA-961顆粒水和剤</u> + <u>7-エンメデ・イファム乳剤</u> メタミロン 70% フェンメデ・イファム 13%	てんさい (移植)	適用性	実	一年生広葉雑草	茎葉	移植活着後 雑草発生揃期	NBA-961: 200~250 g+7-エンメデ・ イファム:400 mL <水量 50~80L>	全土壌		
17. <u>NBA-961顆粒水和剤</u> + <u>レナシル・PAC水剤</u> メタミロン 70% レナシル 40% PAC 30%	てんさい (移植)	適用性	実	一年生雑草 (スミカタビラを除く)	茎葉兼土壌	移植活着後、中耕後 雑草発生始期	NBA-961: 200~250 g+レナシル・ PAC:200g <水量 50L>	全土壌	1) イスト・Iに効果が劣る場合がある。	
18. NC-360 フロアブル剤 キザ・ロホップ・エチル 7%	大豆	適用性	実 (従来通り)	一年生イネ科雑草 (スミカタビラを除く)	茎葉	イネ科雑草 3~8葉期	200~300 mL <水量 100L>	全土壌	1) 体系処理: 広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	
	ばれいしょ	適用性	継							・ 効果、薬害の確認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	試験 種類	判定	使 用 基 準						継続の内容	
				対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		使用上の注意
19. NC-622 液剤 グリホサートカリウム 塩 48%	大豆	適用 性	継								・効果、薬害の 確認
	飼料用 とうも ろこし	作・ 適用 性	継								・効果、薬害の 確認
	かんし よ	適用 性	継								・効果、薬害の 確認
	ばれい しよ	適用 性	継								・効果、薬害の 確認
	さとう きび (圃場 周縁)	適用 性	継								・効果、薬害の 確認
20. NH-611 乳剤 ピラフルフェンエチル 0.4%	ばれい しよ	適用 性	実・ 継	一年生広 葉雑草	茎葉	植付後萌芽 前 雑草発 生期	150～250 mL ＜水量 100L＞	全土壌		1) 北海道のみ	・地域拡大
21. RSH-44 乳剤 ジフルフェニカン 3.7% トリフルラリン 37%	春播小 麦	適用 性	実	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	200～250 mL ＜水量 100L＞	全土壌 (砂土を 除く)		1) 葉に白斑を生じる場 合がある。	
						小麦1～3葉 期 雑草発 生前～始期	100～150 mL ＜水量 100L＞				
22. RSH-44L 粒剤 ジフルフェニカン 0.15% トリフルラリン 2%	春播小 麦	適用 性	実	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	4～5kg	全土壌 (砂土を 除く)		1) 葉に白斑を生じる場 合がある。	
23. SB-508乳 剤+リニロン水 和剤 ジメナミド 76% リニロン 50%	大豆	適用 性	実	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	SB-508: 100mL+リ ニロン:100g ＜水量 100L＞	全土壌 (砂土を 除く)		1) 北海道のみ	

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	試験判 種類定	使 用 基 準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域	使用上の注意	
24. SL-236 (L) 乳剤 フルアジホッフP7 チル 17.5%	てんさい	適用性	実 一年生イ 科雑草(ス ズメノカタビ ラを除く)	茎葉	イ科雑草 3～5葉期	75～100 mL <水量25 ～100L>	全土壌		1) 体系処理：広葉雑草 対象の既登録土壌処 理剤を使用する。 2) 少量散布の場合は 専用ノズルを使用す る。	
25. SYJ-100 乳剤 プロスルホカルフ 800g/L	とうも ろこし	適用性	継							・効果、薬害の 確認
	ばれい しょ	適用性	継							・効果、薬害の 確認
26. YF-65L 液剤 ジクワットジプロミ ド 7% ハラコートジクロリ ド 5%	とうも ろこし 飼料用 とうも ろこし	適用性	実 一年生雑 草	茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期	600～ 1000mL <水量 100L>	全土壌		1) 北海道を除く 2) 雑草の草丈30cm以下 で散布する。 3) 作物に飛散しないよ うに散布する。	
27. ZK-122 液剤 グリホサートカリウム 塩 43%	大豆	適用性	実・ 継 (畦間処理は継続) 一年生雑 草	茎葉	耕起または 播種 7日以 前 雑草生 育期(草丈 30cm以下)	250～500 mL <水量 25～50L>	全土壌		1) 北海道を除く 2) 専用ノズルを使用す る。	・畦間処理での 効果、薬害の 確認
					播種後出芽 前 雑草生 育期(草丈 30cm以下)	250～500 mL <水量50 ～100L>			1) 北海道を除く 2) 大豆の発芽開始後 は、薬剤が直接触れ ると薬害が発生する ことがあるので注意 する。 3) 少量散布(50L)の 場合は専用ノズルを使 用する。	・低薬量、低水 量での効果の 確認
	小豆	作用性	一							
	菜豆	作用性	一							

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	試験 種類	判定	使 用 基 準						継続の内容	
				対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		使用上の注意
ZK-122 液剤	飼料用 とうも ろこし	作・ 適用 性	継								・ 効果、葉害の 確認
	かんし よ	適用 性	実	一年生雑 草	茎葉	耕起 7日以 前 雑草生 育期（草丈 30cm以下）	250～500 mL ＜水量 25～50L＞	全土壌		1) 専用ノズルを使用す る。	
	ばれい しよ	作・ 適用 性	継								・ 効果、葉害の 確認
	陸稲	適用 性	継								・ 効果、葉害の 確認
	そば	適用 性	継								・ 効果、葉害の 確認
28. アラクロール 乳剤 アラクロール 43%	とうも ろこし 飼料用 とうも ろこし	作用 性	一								
29. トリフルラリン 乳剤 トリフルラリン 44.5%	大豆	適用 性	実・ 継	一年生雑 草（苺科、 アブラナ科、 カヤツリグサ 科、ツユクサ を除く）	土壌 （畦間）	播種後出芽 前 雑草発 生前	200～300 mL ＜水量 100L＞	全土壌 （砂土を 除く）			・ 中耕培土後処 理での効果、 葉害の年次変 動の確認
	大豆 （移植）	適用 性	実・ 継	一年生雑 草（苺科、 アブラナ科、 カヤツリグサ 科、ツユクサ を除く）	土壌 （畦間）	中耕培土後 雑草発生前					

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	試験判定 種類	使用基準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域		
トリフルリン 乳剤	かんし よ	適用性	実・ 継 (一年生雑 草(イ科、 アブナ科、 カタリクサ 科、ツクサ を除く))	土壌 (畦間)	植付後 雑 草発生前	200~300 mL (砂土を 除く) <水量 100L>	全土壌			・マダ前処理で の効果、葉害 の確認
	春播小 麦	適用性	実・ 継 (一年生イ 科雑草)	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	200~300 mL (砂土を 除く) <水量 100L>	全土壌			
30. トリフルリン 粒剤 トリフルリン 2.5%	大豆	適用性	実・ 継 (一年生雑 草(イ科、 アブナ科、 カタリクサ 科、ツクサ を除く))	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	4~6kg	全土壌 (砂土を 除く)		1) 北海道を除く	・中耕培土後処 理での効果、 葉害の確認
	かんし よ	適用性	実・ 継 (一年生雑 草(イ科、 アブナ科、 カタリクサ 科、ツクサ を除く))	土壌 (畦間)	植付後 雑 草発生前	3~4kg	全土壌 (砂土を 除く)			
	かんし よ (マダ)	適用性	実・ 継 (一年生雑 草(イ科、 アブナ科、 カタリクサ 科、ツクサ を除く))	土壌	植付前 マ ルチ前 雑 草発生前				1) 畦の急傾斜部分は粒 剤が付着しにくい ので効果が劣る。	
	春播小 麦	適用性	実・ 継 (一年生イ 科雑草)	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	4~5kg	全土壌 (砂土を 除く)			
31. リニロン 水和剤 リニロン 50%	大豆	適用性	実・ 継 (一年生雑 草 (従来通り))	土壌	播種直後	100~200 g (砂土を 除く) <水量70 ~150L>	全土壌			・畦間処理での 効果、葉害の 確認
	ばれい しよ	適用性	実・ 継 (一年生雑 草 (従来通り)) を除く)	土壌	植付直後~ 萌芽前	100~200 g (砂土を 除く) <水量70 ~150L>	全土壌			・北海道でのイ 科雑草に対す る効果の確認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	試験判定 種類	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
32. レナシル・PAC 顆粒水和剤 レナシル 40% PAC 30%	てんさい (移植)	適用性	実・雑 (従来通り)	一年生雑草(スミレ、カタビラを除く)	茎葉兼土壌	移植活着後雑草発生初期	200~300g <水量100L>	全土壌		・散布水量について
33. NC-331 水和剤 ハロスルフロメチル 5%	さとうきび (株出)	適用性	実	一年生広葉雑草	茎葉	さとうきび生育初期、広葉雑草3~5葉期	150~200g <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	1) 体系処理：イ科雑草対象の既登録除草剤を使用する。	
				ハマスガ*		ハマスガ* 3~5葉期	100~200g <水量100L>			
34. SYJ-171 液剤 ハ'ラコトジクロリド 100g/L	大豆	適用性	雑							・効果、葉害の確認
	かんしよ	適用性	雑							・効果、葉害の確認
	ばれいしよ	適用性	雑							・効果、葉害の確認
	こんにやく	適用性	雑							・効果、葉害の確認

B. 生育調節剤

薬 剤 名	作物名	試験判定種類	使 用 基 準							継続の内容
			使用目的	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. AH-01 液剤 (S)-2-アミノ-4-[ヒド`ロキシ(メチル) ホスフィノイル]ブ`タン 酸ナトリウム塩 10.5%	ばれい しょ	適用性	継	〔茎葉枯凋促進効果（茎葉黄変期処理）〕					・ 効果の確認	

B. 生育調節剤

薬剤名	作物名	試験種類	判定	使用基準							継続の内容
				使用目的	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
2. F-8426E0 カルフェントラチン 60g/L	ばれい しょ	適用性	実 (従来通り)	[茎葉枯凋促進効果 (茎葉繁茂期処理)]							1) 北海道のみ
	ばれい しょ	適用性	実・ 継	茎葉枯凋 促進効果	茎葉	開花始30日 後以降 (茎 葉繁茂期) (2回処理)	200mL→ 150~200 mL <水量 100L>				
3. NGR-303 粒剤 イソプロチオン 12%	かんし よ	適用性	実・ 継	[活着促進、鮮紅色促進]							・活着促進効果 の確認 ・鮮紅色促進効果 の確認
	かんし よ	適用性	実・ 継	鮮紅色促進	土壌混和	植付前	4~6kg				
4. NH-611 乳剤 ピラフルフェニル 0.4%	ばれい しょ	適用性	実	[茎葉枯凋促進効果 (茎葉繁茂期処理)]							
	ばれい しょ	適用性	実	茎葉枯凋 促進効果	茎葉	開花始30日 後以降 (茎 葉繁茂期) (2回処理)	450mL→ 250~450 mL <水量 100L>				
5. S-327D 液剤 ウニコナールP 0.025%	てんさい (移植)	適用性	実・ 継 (従来通り)	[育苗期の伸長抑制 (噴霧処理)]							・本業展開始期 での効果の確認
	てんさい (移植)	適用性	実・ 継 (従来通り)	育苗期の 伸長抑制	茎葉 (噴霧 処理) 茎葉 (灌水 処理)	移植2~3週 間前	10~20倍 <水量50 mL/冊> 100倍 <水量500 mL/冊>				
6. VST-16 液剤 酵母エキス 32.5%	ばれい しょ (男爵 薯)	作用性	一	[肥大促進、上いも歩合の向上]							
7. イホン 液剤 イホン 10%	春播小 麦	適用性	実	[節間伸長抑制による倒伏軽減]							1) 少量散布の場合は 専用ノズルを使用す る。
7. イホン 液剤 イホン 10%	春播小 麦	適用性	実	節間伸長 抑制による 倒伏軽減	茎葉	出穂始期	100~200 mL <水量25 ~100L>				